

武蔵野美術大学 教職課程の概要

第3年報

2017(平成29)年4月1日現在

武蔵野美術大学

■この報告書について■

この『武蔵野美術大学教職課程の概要』は、2014(平成 26)年 9 月 26 日公布の改正省令(平成 26 年文部科学省令第 28 号)によって改正された教育職員免許法施行規則(昭和 29 年文部省令第 26 号。以下、「施行規則」という。)第 22 条の 6 に基づいて、武蔵野美術大学の教員養成の状況について公開するものです。この改正された施行規則は、2015(平成 27)年 4 月 1 日から施行され、同条に次の各号のとおり公開すべき内容が定められています(初等高等局長発通知、平成 26 年 9 月 26 日、26 文科初第 630 号)。

- ① 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること。(施行規則第 22 条の 6 第 1 号)
- ② 教員の養成に係る組織及び教員の数、各教員が有する学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目に関すること。(施行規則第 22 条の 6 第 2 号)
- ③ 教員の養成に係る授業科目、授業科目ごとの授業の方法及び内容並びに年間授業計画に関すること。(施行規則第 22 条の 6 第 3 号)
- ④ 卒業者の教員免許状の取得状況に関すること。(施行規則第 22 条の 6 第 4 号)
- ⑤ 卒業者の教員への就職の状況に関すること。(施行規則第 22 条の 6 第 5 号)
- ⑥ 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組に関すること。(施行規則第 22 条の 6 第 6 号)

この『武蔵野美術大学教職課程の概要』は、この全 6 号で定められた内容を網羅するもので、6 つの章に分けて情報を掲載します。すでに本学は法令で定められた大学情報の公表や各授業科目のシラバスの公開などをウェブページや印刷物を用いて行っていますので、より詳しい情報を記載したものがある場合は「**詳細参照**」として明示しています。

この『武蔵野美術大学教職課程の概要』は 2015(平成 27)年 4 月 1 日に第 1 年報を公表し、2016(平成 28)年 4 月 1 日には第 2 年報を公表します。

目 次

1	■本学の教育目標と教員養成の目標■	(施行規則第 22 条の 6 第 1 号)	1
	■教員養成の目標 ■造形学部の教育目標と教育方針		
2	■教職課程の構成■	(施行規則第 22 条の 6 第 2 号)	3
	■教員の養成に係る組織及び教員の数 ■教職課程の教員の学位及び業績		
3	■教職課程の授業科目の概要■	(施行規則第 22 条の 6 第 3 号)	1 1
	■定員及び課程認定状況 ■教職に関する科目一覧 ■年間の授業計画		
4	■免許状の授与件数■	(施行規則第 22 条の 6 第 4 号)	1 2
	■教職課程受講者人数 ■免許状授与件数 ■免許状更新講習実施数		
5	■就職状況■	(施行規則第 22 条の 6 第 5 号)	2 1
	■東京都教員選考合格者実績 ■学校教員の採用実績		
6	■質向上の取組■	(施行規則第 22 条の 6 第 6 号)	2 2
	■大学独自教科書の発行 ■美術と福祉プログラム ■造形ファシリテーション能力獲得プログラム		
	■旅するムサビ・ムサビる ■学校ボランティア・インターンシップ ■教職課程の授業評価		
	■児童生徒・保護者向けの情報公開 ■教育研究施設の充実 ■科学研究費補助金による研究活動		
	■大学院ゼミ雑誌『造形と教育』の刊行		

1 ■ 本学の教育目標と教員養成の目標 ■ (施行規則第 22 条の 6 第 1 号)

■ 教員養成の目標

武蔵野美術大学は、教員の養成の目標として、造形学部全体、通学課程各学科、通信教育課程のアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを踏まえ、建学の精神である「教養を有する美術家養成」を基盤として、自らが「真に人間的自由に達するような美術教育」を担う主体としての美術科教員、工芸科教員、情報科教員を養成することを目標としています。

このため、教育職員免許法による中学校の美術科、高等学校の美術科、工芸科、情報科の免許状を授与するための教育課程を整備するとともに、さらに学校における造形教育を担うための実践的な指導力と教員としての幅広い教養をもつ人材の養成を進めています。

具体的には教育職員免許法などで定める必要最低限の科目にとどまらず、必修や選択の授業科目を加えています。通学課程では、介護等体験法に連動して「美術と福祉」を必修（情報免許を除く）として社会福祉に関する教養と美術について造形ワークショップを中心とした実践能力を培い、選択科目として「教育学特別演習」「教育方法特別演習」などの教職教養や専門教養のゼミ形式の科目を増設し、さらに「ワークショップ実践研究Ⅰ」「ワークショップ実践研究Ⅱ」を開講しています。通信教育課程では介護等体験法に連動して「介護等体験」を必修（高等学校のみの場合を除く）として社会と造形についての実践能力を培い、「教科又は教職に関する科目」の「ワークショップ研究Ⅰ」「ワークショップ研究Ⅱ」を選択科目として開設しています。

こうした特色あるカリキュラムと、各免許状に必要な「教職に関する科目」「教科に関する科目」を充実して、実践的指導能力と幅広い教養をもつ教員養成をすすめています。

■ 造形学部の教育目標と教育方針

造形学部全体で定めている教育目標や教育方針は次のとおりです。このほか、大学院、通学課程各学科、通信教育課程においても定められています。

○教育目標

武蔵野美術大学造形学部は、美術を総合的な人間形成をもって成るものとする教育理念に基づき、次の教育目標を掲げる。

1. 幅広い教養を備え、人格的にも優れた美術・デザインを中心とする造形各分野の専門家を養成する。

2. 美術とデザインの領域における総合的な造形教育を通じて、広く知識を授けるとともに、深く専門の技能、理論や応用を教授研究し、豊かな美的教養をそなえた社会人を育成する。

こうした人材の輩出をもって、日本と世界の文化の創造発展と社会に貢献することを、武蔵野美術大学の使命とする。

○造形学部のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

造形の各分野を専攻するにあたっては、総合的判断力・批判力を養うために広く諸学問を学ぶ〔文化総合科目〕、造形という大きな視点から専門性の位置づけや基礎を確認するために、自分の専攻とは異なった領域や他学科の開講する授業を学ぶ〔造形総合科目〕、個々の学科が独自に専門的能力を追求する〔学科別科目〕の三者をバランスよく統合したところに、真の造形教育が成立すると考えています。

〔文化総合科目〕は、教養文化に関する科目、言語文化に関する科目、身体文化に関する科目、造形文化に関する科目という4つの科目群から構成されています。学生は、定められた条件のもと自由に科目を選択することができ、学生自身が自己の追求する専門領域の基盤を独自のかたちで構築することができます。開講される授業は、横断的な視点を取り入れたものや、段階を追ってテーマを深め

ていくものなど、より個性的に編成されています。

また、既成の領域にとらわれない新しい分野をカバーする科目、国際化や高度情報化社会など、新たな社会システムに対応した科目が用意されていることは言うまでもありません。

〔造形総合科目〕は、すべての学生が、1年次前期から2年次前期にかけて、絵画・彫刻・デザインから専攻と異なった領域を学ぶ〔I類必修科目〕、他学科・研究室が開設する授業を1年次（5期）に履修する〔I類選択必修科目〕、年次を問わず各学科が公開する授業（オープン科目）や学科を越えて横断的に専任教員が開設する授業（横断科目）を卒業するまでに選択して履修する〔II類科目〕（うち2単位は選択必修）で構成されています。

専門分野の深化とともに、他の分野にも広く目を開き経験することによって、造形という領域を総合的に捉えることを目的とする科目群です。

〔学科別科目〕は、学科ごとに設置されている科目であり、専門家として欠くことのできない専門的基礎理論・表現方法などの学習から、さらに高度の専門課程へと展開していく科目です。

こうした有機的な科目群の結びつきと展開性は、本学の教育の大きな特徴であり、伝統的に保持してきた教養あふれる豊かな人間性の確立を基盤としたところに優れた芸術が成立するという、教育の基本理念に基づくものです。

○造形学部のアドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

- 1.自らの目指す専門性を着実かつ大胆に深化、開拓しようとする人
- 2.専門性を支える幅の広い造形力や教養を身に付けようとする人
- 3.文化の創造発展に寄与し、国際社会で活躍しようとする人

○造形学部のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

武蔵野美術大学造形学部は、教育目標の実現のため編成されたカリキュラムのもと、設定された科目を履修し、卒業制作または卒業論文・研究を提出した者で、卒業に必要な単位を修得したものに卒業を認め学士（造形）の学位を授与する。

具体的な方針は、各学科のディプロマ・ポリシーによるが、学位を授与するにあたっては、以下の事項について総合的に評価される。

- ・造形の各分野を専攻するにあたって、総合的判断力や批判力が養われているか
- ・造形という観点から、自己の専門性の位置づけや基礎を確認できているか
- ・個々の学科の独自の専門能力が修得されているか

詳細参照 建学の精神は『武蔵野美術大学のあゆみ』（武蔵野美術大学出版局、2009年）をご覧ください。通学課程各学科や通信教育課程の教育目標などは大学ウェブページの「大学概要 武蔵野美術大学について 建学の精神・教育理念」「大学情報の公開」をご覧ください。

人教育美術振興会評議員。

詳細参照 武蔵野美術大学ウェブページ「専任教員プロフィール集」

■伊東 毅（いとう・たけし） 教授

担当科目：(通学) 生活指導の研究、特別活動の研究、道徳教育の研究、教育実践の研究、教育実習、教職実践演習（中高）、教育学

：(通信) 教育相談論、教育実践の研究、教育実習、教職実践演習（中高）

修士（教育学）。東京大学大学院教育学研究科博士課程満期退学。教育哲学を専攻。著書（単著）に『未来の教師におくる特別活動論』武蔵野美術大学出版局 2011 年、共編著に高橋陽一・伊東毅著『道徳科教育講義』武蔵野美術大学出版局 2017 年、高橋陽一・伊東毅編『新しい教育相談論』武蔵野美術大学出版局 2016 年、汐見稔幸・伊東毅ほか編著『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房 2011 年、共著に公益財団法人私立大学通信教育協会編『新しい教育事情』同協会 2016 年、教育科学研究会編『なくなる「いじめ」を考える』国土社 2008 年、『教育相談論』武蔵野美術大学出版局 2002 年ほか、学術論文に「現代日本におけるいじめの特質—教育システムといじめとの関係の考察を中心に」社会文化学会編『社会文化研究』第 4 号晃洋書房 2001 年ほか。

詳細参照 武蔵野美術大学ウェブページ「専任教員プロフィール集」

■三澤一実（みさわ・かずみ） 教授

担当科目：(通学) 教育方法、美術教育法ⅠⅡⅢ、教育方法、教育実践の研究、教育実習、教職実践演習（中高）、ワークショップ実践研究Ⅱ

：(通信) 教育方法、美術教育法Ⅰ、教育実践の研究、教育実習、教職実践演習（中高）

修士（芸術学）。東京藝術大学大学院修士課程修了。美術教育を専攻。監修に『美術教育の題材開発』武蔵野美術大学出版局 2014 年、共著・編著に文部科学省検定中学校教科書『美術 1』『美術 2・3』開隆堂 2012 年、『美術教育の動向』武蔵野美術大学出版局 2009 年、『小学校学習指導要領の解説と展開 図画工作編』教育出版 2008 年など。

詳細参照 武蔵野美術大学ウェブページ「専任教員プロフィール集」

■高橋陽一（たかはし・よういち） 教授

担当科目：(通学) 教師論、教育原理ⅠⅡ、教育実践の研究、教育実習、教職実践演習（中高）、教育学特別演習、ワークショップ実践研究Ⅰ

：(通信) 教師論、教育原理ⅠⅡ、道徳教育の研究、教育実践の研究、教育実習、教職実践演習（中高）、ワークショップ実践研究ⅠⅡ

：(大学院) 教育学研究

修士（教育学）。東京大学大学院教育学研究科博士課程満期退学。日本教育史（国学・宗教教育）を専攻。著書（単著）に『教育通義』『造形ワークショップを支える』『美術と福祉とワークショップ』『新版 道徳教育講義』、監修に『ワークショップ実践研究』、共編著に『道徳科教育講義』『新しい教育相談論』『造形ワークショップ入門』『新しい教師論』『造形ワークショップの広がり』『教師論』『生活指導論』『特別活動論』『教育相談論』いずれも武蔵野美術大学出版局、共著に東京大学史料室編『東京大学の学徒動員・学徒出陣』東京大学出版会 1997 年、駒込武ほか編『戦時下学問の統制と動員』東京大学出版会 2011 年ほか。公益財団法人私立大学通信教育協会理事長。

詳細参照 武蔵野美術大学ウェブページ「専任教員プロフィール集」

○非常勤講師

教職課程研究室に所属して教育活動に当たる非常勤講師を五十音順に列記した。一部に教科に関する

る科目などを含む。

(主な変更) 2015年度に鈴木弘之講師と河田敦子講師が退任した。2016年度に有福一昭講師と佐藤清親講師が着任した。

■有福一昭(ありふく・かずあき) 講師 (通学) 美術と福祉

修士(芸術学)。有明教育芸術短期大学教授。多摩美術大学大学院美術研究科修士課程修了。絵画専攻。共著に『教師論』武蔵野美術大学出版局2002年、『造形ワークショップの広がり』武蔵野美術大学出版局2011年など。公益財団法人児童育成協会こどもの城造形事業部課長などを歴任。

■桂瑠以(かつら・るい) 講師 (通学) 教育心理学、教育相談論

博士(人文科学)。川村学園女子大学文学部心理学科准教授。お茶の水女子大学大学院博士後期課程修了。社会心理学・教育心理学を専攻。共著に『新しい教育相談論』武蔵野美術大学出版局 2016 年、『考えるための心理学』武蔵野美術大学出版局 2012 年など。学術論文に「The effect of mobile phone use on communication between parents and children」『Ochanomizu University Global COE Program English Monograph Proceedings』第 17 巻 2012 年など。

詳細参考 川村学園女子大学教員紹介

■川本雅子(かわもと・まさこ) 講師 (通学) 美術と福祉、(通信) ワークショップ研究 I

学士(造形)。武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業。美術教育学(社会福祉施設におけるワークショップなど)を専攻。共著に『ワークショップ実践研究』武蔵野美術大学出版局 2002 年、『造形ワークショップの広がり』武蔵野美術大学出版局 2011 年、『造形ワークショップ入門』武蔵野美術大学出版局 2015 年。

■北沢昌代(きたざわ・まさよ) 講師 (通学) 美術教育法 I、美術教育法 II、美術教育法 III、教育方法、(通信) 教育方法

芸術学修士。聖徳大学短期大学部准教授。武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻油絵コース修士課程修了。美術教育(教科指導法、教科指導方法)を専攻。共著に『子どもの造形表現 ワークシートで学ぶ』開成出版 2016 年、『美術教育の動向』武蔵野美術大学出版局2009年など。学術論文に「音もだちランド」における学生の学びについて『日本美術教育連合研究誌』第 44 回 2011 年など。近作に「MASAYO KITAZAWA Exposition」salon de H フランス 2011～2014 年毎年発表など。全国大学造形美術教育教員養成協議会事務局長を歴任。

詳細参照 聖徳大学研究データベース

■栗田るみ子(くりた・るみこ) 講師 (通信) 情報教育法 I II

修士(教育学)。城西大学経営学部教授。東京学芸大学教育学研究科修士課程修了。情報教育(教育システム開発・カリキュラム開発)を専攻。共著に『知と技を育てる情報基礎教育』出版文化社、『情報科教育法』学文社など。学術論文に「グループ活動と個別活動を融合した自立支援型授業プログラムの実践」職業リハビリテーション学会『2013年発表論文集』2013年12月など。

詳細参照 城西大学専任教員プロフィール

■桑田直子(くわた・なおこ) 講師 (通信) 教師論

Ph.D(マンチェスター大学による学術博士号)。島根県立飯南高等学校教諭。マンチェスター大学人文科学部博士課程修了。共著『新しい教師論』武蔵野美術大学 2014 年に「欧米の教員養成」を執筆。学術論文に「1920-30 年代高等女学校における洋装制服の普及」『日本の教育史学』第 39 集 1996

年、「市民洋装普及過程における裁縫科の展開とディレンマ」『教育学研究』第 65 巻第 2 号 1998 年など。

■小林道夫（こばやし・みちお）講師（通信）情報教育法 I II

教育学士。神奈川大学附属中学校高等学校教諭。関西大学大学院総合情報学研究科総合情報学専攻博士課程後期課程満期退学。総合情報学を専攻。著書（単著）に『ITと教育』御茶の水書房2001年、菊池久との共著『情報教育と国際理解』日本文教出版2002年、『情報教育辞典』丸善2008年など。学術論文に「NHK学園高校における高校講座「情報A」の学習状況の調査」『日本情報科教育学会誌』2009年、「通信制高校におけるeラーニングの取組み」『神奈川大学心理・教育研究論集』第33巻2013年など。2000年、第15回東書教育賞受賞。

■佐藤清親（さとう・きよちか）講師（通学）工芸教育法 I II

教育学修士。女子美術大学特別招聘教授。東京学芸大学大学院美術教育研究科修士課程修了。美術教育学を専攻。著書（共著）に、高橋陽一編『新しい教師論』武蔵野美術大学出版局2014年、小久保明浩・高橋陽一編『教師論』武蔵野美術大学出版局2002年。学術論文に「生徒が納得する評価を求めて」東京都教育庁指導部編『東京都教育開発指導資料集』1994年など。東京都立高等学校3校で美術科教諭、東京都立総合芸術高等学校長、東京都高等学校美術工芸教育研究会会長、全国高等学校美術工芸教育研究会会長、全国芸術高等学校長協会理事長を歴任。

■杉山貴洋（すぎやま・たかひろ）講師（通学）美術と福祉、（通信）ワークショップ研究 I II

学士（造形）。白梅学園大学子ども学部発達臨床学科准教授。武蔵野美術大学造形学部視覚伝達デザイン学科卒業。造形教育を専攻。共著に『ワークショップ実践研究』『造形ワークショップの広がり』『造形ワークショップ入門』（武蔵野美術大学出版局）など。2008年、2010年、2011年、2013年にキッズデザイン賞を受賞。2009年富田博之記念賞受賞、第7回こども環境学活動賞受賞。

詳細参照 白梅学園大学各教員ページ

■大間敏行（だいま・としゆき）講師（通信）道德教育の研究

修士（教育学）。近畿大学九州短期大学講師。筑波大学大学院博士課程単位取得満期退学。日本教育史（道德教育・国民教育）を専攻。共著に高橋陽一・伊東毅編『新しい教育相談論』武蔵野美術大学出版局 2016 年、藤田祐介編著『生徒指導の教科書』文化書房博文社 2014 年、神辺靖光編著『明治前期中学校形成史府県別編 3』梓出版社 2014 年、石村華代・軽部勝一郎編著『教育の歴史と思想』ミネルヴァ書房 2013 年など。学術論文に「江藤新平の教育構想」『日本の教育史学』第 49 集 2006 年など。2009 年第 22 回石川謙日本教育史研究奨励賞を受賞。日本教育史学会幹事。

■高野一（たかの・はじめ）講師（通学）教育方法特別演習

教育学士。埼玉大学教育学部卒業。中学校課程（美術科）を専攻。共著に『美術教育の題材開発』武蔵野美術大学出版局 2014 年。所沢市教育委員会指導主事、埼玉県教育局西部教育事務所主任指導主事を歴任。2013(平成 25)年 3 月に所沢市立柳瀬中学校を退職。埼玉県美術教育連盟副連盟長（2010～2012 年度）。

■田中千賀子（たなか・ちかこ）講師（通学）美術と福祉、（通信）教育原理 I、教育原理 II、ワークショップ研究 I

博士（造形）。武蔵野美術大学大学院博士後期課程修了。日本教育史・美術教育を専攻。著書（単著）に『近代日本における学校園の成立と展開』風間書房 2015 年、著書（共著）に『造形ワークショップ入門』武蔵野美術大学出版局 2015 年。学術論文に「学校園概念の成立」『日本の教育史学』第 52

集 2009 年、「明治後期の教育課程論における学校園の造形と道德教育」『成城大学共通教育論集』第 4 号 2011 年、「東京市の公立小学校における学校園の展開」『日本の教育史学』第 55 集 2012 年など。東京家政大学家政学部助教を歴任。日本教育史学会幹事。

■中尾美月（なかお・みづき）講師（通信）教育心理学

博士（心理学）。広島大学大学院教育学研究科博士課程後期単位修得退学。実験心理学（認知心理学・生理心理学）を専攻。共著に『心理学研究の世紀①認知・学習心理学』ミネルヴァ書房 2012年など。

■永関和雄（ながせき・かずお）講師（通学）美術の理論と歴史と鑑賞、教職実践演習

学士（芸術学）。多摩美術大学美術学部デザイン科グラフィックデザイン専攻卒業。美術教育学を専攻。公立中学校美術科教諭を経て東京都教育委員会指導主事、指導室長、町田第三中学校統括校長、全国造形教育連盟委員長などを歴任。現在、光村図書美術教科書著者、公益財団法人教育美術振興会評議員、美術教育研究会アートヌーボー代表など。

■鍋島尚子（なべしま・たかこ）講師（通学）情報教育法ⅠⅡ

修士（教育学）。東京学芸大学大学院修士課程教育学研究科数学教育専攻情報科学分野修了。情報教育学を専攻。学術論文に「高等学校普通教科情報情報の検定教科書における著作者人格権の取扱いに関する研究」『学校教育学研究論集第 24 号』2011 年 10 月など。

■橋本萌（はしもと・めぐみ）講師（通信）特別活動の研究

修士（社会科学）。お茶の水女子大学大学院博士前期課程修了。日本教育史（修学旅行の歴史）を専攻。学術論文に「1930 年代東京府（東京市）小学校の伊勢参宮旅行—規模拡大の経過と運賃割引要求—」『教育学研究』第 80 巻第 1 号 2013 年など。

■葉山登（はやま・のぼる）講師（通学）美術と福祉（通信）介護等体験

修士（教育学）。横浜創英大学こども教育学部幼児教育学科教授。武蔵野美術大学造形学部彫刻学科卒業、東京学芸大学大学院修士課程修了。美術教育学・彫刻を専攻。単著に『生きる力を強めるために』はる書房 1992 年、『色彩造形教育の実践—』はる書房 2001 年。共著に『ワークショップ実践研究』武蔵野美術大学出版局 2002 年、『造形ワークショップの広がり』武蔵野美術大学出版局 2011 年、『障がい児保育』光生館 2012 年など。

詳細参考 横浜創英大学教員紹介

■松本敏裕（まつもと・としひろ）講師（通信）美術教育法Ⅱ、工芸教育法Ⅰ

学士（造形）。武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業。美術教育（教科指導法、教育課程）を専攻。学術論文に「地球環境をテーマとしたエコトレインポスターの制作と鑑賞の展開」全国高等学校教育課程研究協議会事例発表2003年、「文化部活動の活性化」神奈川県教頭研究会事例発表2005年など。神奈川県高等学校教諭、神奈川県教育委員会主幹兼指導主事、県立希望ヶ丘高等学校副校長を退任。

■山口正己（やまぐち・まさみ）講師（通信）美術教育法ⅡⅢⅣ

修士（教育学）。千葉大学大学院教育学研究科美術教育修了。美術教育を専攻。単著に『中学校美術 デザイン教育入門』明治図書 1992 年、共著に『図画工作・美術教育研究』教育出版 1994 年、『中学校美術観点別学習状況評価基準表』図書文化社 1994 年、『中学校美術題材集』開隆堂 1996 年、『新しい美術科の指導』開隆堂出版 1996 年など。

■ 渡辺典子（わたなべ・のりこ）講師 （通学）教育学、（通信）生活指導の研究

修士（文学）。日本女子大学大学院文学研究科博士課程後期満期退学。教育学・日本教育史を専攻。著書（共著）に『特別活動論』武蔵野美術大学出版局 2002 年、『新しい生活指導と進路指導』武蔵野美術大学出版局 2013 年。学術論文に「埼玉県入間郡における豊岡大学の創設過程」『地方教育史研究』第 21 号 2000 年、「動物愛護を通じた社会づくりに関する考察」『人間研究』2015 年。2001 年第 14 回石川謙日本教育史研究奨励賞を受賞。全国地方教育史学会幹事。

3 ■教職課程の授業科目の概要■ (施行規則第22条の6第3号)

■定員及び課程認定状況

定員などは課程認定を受けた学科のみを示します。課程認定を受けていない造形学部の建築学科、基礎デザイン学科、映像学科は除いています。

(通学課程) 1種免許状の課程

(通学課程) 課程認定学科専攻		定員			免許種別・免許教科
		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	
造 形 学 部	日本画学科	40		160	・高等学校1種免許状 美術 ・高等学校1種免許状 工芸 ・中学校1種免許状 美術
	油絵学科	140	12	584	
	彫刻学科	33		132	
	視覚伝達デザイン学科	102	7	442	
	工芸工業デザイン学科	133	12	556	
	空間演出デザイン学科	120	10	500	
	芸術文化学科	80	3	326	
	デザイン情報学科	100		400	・高等学校1種免許状 情報

通学課程のうち建築学科、基礎デザイン学科、映像学科は課程認定を受けていない。

(通学課程) 専修免許状の課程

(通学課程) 課程認定専攻		定員		免許種別・免許教科
		入学定員	収容定員	
大 学 院	修士課程 美術専攻	28	56	・高等学校1種免許状 美術 ・高等学校1種免許状 工芸
	修士課程 デザイン専攻			
	(デザイン情報学コース)	28	56	・中学校1種免許状 美術 ・高等学校1種免許状 情報

(通信教育課程) 1種免許状の課程

(通学課程) 課程認定学科専攻		定員				免許種別・免許教科
		入学 定員	編入学定員		収容 定員	
			2年次	3年次		
造 形 学 部	油絵学科	200	20	60	980	・高等学校1種免許状 美術 ・高等学校1種免許状 工芸 ・中学校1種免許状 美術 ・高等学校1種免許状 情報
	工芸工業デザイン学科	150	15	45	735	
	芸術文化学科	100	10	30	490	
	デザイン情報学科	150	15	45	735	

■教職に関する科目一覧

詳細参照 授業科目のシラバスは大学のウェブページをご覧ください。

教育職員免許法施行規則による規定			武蔵野美術大学			
施行規則に定める科目区分等	各科目に含める必要事項	単位数	通学課程		通信教育課程	
			科目	単位数	科目 <small>Tは通信授業 Sは面接授業</small>	単位数
教職の意義等に関する科目	<ul style="list-style-type: none"> ・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む） ・進路選択に資する各種機会の提供等 	2	教師論	2	教師論	T2
教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	教育原理Ⅰ	2	教育原理Ⅰ	T2
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）		教育心理学	2	教育心理学	T2
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		教育原理Ⅱ	2	教育原理Ⅱ	T2
教育課程及び指導法に関する科目	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の意義及び編成の方法 ・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む） 	中12 高6	教育方法（教育課程を含む）	2	教育方法（教育課程を含む）	T1 S1
	・各教科の指導法		美術教育法Ⅰ	2	美術教育法Ⅰ	T2
			美術教育法Ⅱ	2	美術教育法Ⅱ	T1S1
			美術教育法Ⅲ	2	美術教育法Ⅲ	T2
					美術教育法Ⅳ	T1S1
			工芸教育法Ⅰ	2	工芸教育法Ⅰ	T2
			工芸教育法Ⅱ	2	工芸教育法Ⅱ	T1S1
			情報科教育法Ⅰ	2	情報教育法Ⅰ	T2
			情報科教育法Ⅱ	2	情報教育法Ⅱ	T1S1
	・道徳の指導法		道徳教育の研究	2	道徳教育の研究	T2
・特別活動の指導法	特別活動の研究	2	特別活動の研究	T2		
生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法 	4	生活指導の研究（進路指導を含む）	2	生活指導の研究（進路指導を含む）	T2
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法		教育相談論	2	教育相談論	T2
教職実践演習		2	教職実践演習（中・高）	2	教職実践演習（中・高）	T1S1
教育実習		中5 高3	教育実習Ⅰ	2	教育実習Ⅰ	S2
			教育実習Ⅱ	2	教育実習Ⅱ	S2
			教育実践の研究	1	教育実践の研究	S1
教科又は教職に関する科目			美術と福祉	2	介護等体験	T2
		ワークショップ研究Ⅰ			T1S1	
		ワークショップ研究Ⅱ			T1S1	

■年間の授業計画（平成29年度）

平成29年度の授業計画は次のとおりです。

月	日	週	通学課程 学事予定	通信教育課程 学事予定	備考
4	- 1			4/1(土)4月生入学・編入学	
	3- 8		オリエンテーション週間4/4(火) 入学式		
	10-15	1	4/10(月) 前期授業開始、科目履修登録		
	17-22	2			
	24-29	3		4/28(金) 春期週末スクーリング開始	
5	1- 6	4			
	8-13	5			
	15-20	6			
	22-27	7			
6	29- 3	8	教育実習5/29(月)～6月17日(土)	6/4(日) 第1回科目試験	
	5-10	9	6/10(土)、11(日)オープンキャンパス		
	12-17	10			
	19-24	11			
7	26- 1	12			
	3- 8	13	7/8(土)前期授業終了		
	10-15	14	前期補講週間 7/10(月)～7/15(土)		
	17-22	15	前期講義科目定期試験週間7/17(月)～7/22(土)	7/17(祝) 第2回科目試験 7/17(祝) 春期週末スクーリング終了 夏期スクーリング 7/21(金)～8/20(日)	7/17(月)海の日は試験を行う
	24-29		夏季休業 7/24(月)～9/2(土)	(鷹の台 7/25(火)～8/20(日))	
8	31- 5				
	7-12		8/12(土)、8/13(日)オープンキャンパス		
	14-19				
	21-26				
9	28- 2			9/3(日)第3回科目試験	
	4- 9	16	9/4(月) 後期授業開始	9/8(金) 秋期週末スクーリング開始	
	11-16	17			
	18-23	18			
10	25-30	19		10/1(日)10月生入学・編入学	
	2- 7	20			
	9-14	21	大学院修士課程入学試験(A日程)10/15(日)	10/15(日) 秋期週末スクーリング終了/第4回科目試験	
	16-21	22		10/20(金) 冬期週末スクーリング開始	
	23-28		芸術祭活動 準備10/23-26 祭典 10/27-29		
11	30- 4		整理10/30-11/1 休講11/2-4		10/30(月)創立記念日
	6-11	23			
	13-18	24	公募制推薦入試11/18(土)、19(日)		
	20-25	25		11/23(祝) 第5回科目試験	

12	27- 2	26			
	4- 9	27			
	11-16	28	12/16(土)後期授業終了		
	18-23	29	後期補講週間12/18-23、編入学試験19-20、 外国人・帰国生特別入試21-22		12/23(土)天皇誕生日は補講 を行う
	25-30		12/25(月)後期講義科目定期試験 冬季休業12/26(火)-1/6(土)		
1	1- 6				
	8-13	30	講義科目定期試験週間 1/9(火)-13(土)	1/8 (日) 第6回科目試験	
	15-20		卒業制作展1/18(木)-21(日)		
	22-27		大学院修士課程入学試験(B日程)1/24-25	1/28 (日) 冬期スクーリング終了	
2	29- 3		学部入学試験 2/3(土)-11(日)		
	5-10				
	12-17				
	19-24				
3	26- 3		大学院博士後期課程入学試験2/26(月)~27(火)		
	5-10			3/10 (土) ~13 (火) 卒業制作展	
	12-17		3/17 (土) 卒業式	3/17(土)卒業式	
	19-24				
	26-31				

4 ■免許状の授与件数■ (施行規則第 22 条の 6 第 4 号)

■教職課程受講者人数

教職課程の受講が可能な者は、通学課程では課程認定を受けた造形学部 8 学科と大学院造形研究科 2 専攻の 1 年次の学生と、同卒業生の科目等履修生です。通信教育課程では、造形学部 4 学科の 2 年次以上で、取得単位数等の条件を満たした学生が受講可能となり、さらに本学卒業生や現職教員を科目等履修生で受け入れています。

○通学課程 2016(平成 28)年 5 月 1 日現在

(通学課程)		登録者数					免許教科別人数			
							中学		高等学校	
課程認定学科専攻		1 年	2 年	3 年	4 年	小計	美術	美術	工芸	情報
造形学部	日本画学科	11	9	12	9	41	41	41	4	0
	油絵学科	38	50	49	54	191	191	191	28	0
	彫刻学科	10	8	4	11	33	33	33	2	0
	視覚伝達デザイン学科	3	6	3	3	15	15	15	1	0
	工芸工業デザイン学科	8	13	11	16	48	48	48	27	0
	空間演出デザイン学科	5	12	17	14	48	48	48	12	0
	芸術文化学科	17	9	10	13	49	49	49	13	0
	デザイン情報学科	5	5	2	3	15	0	0	0	15
	科目等履修生	19					19	18	18	7
造形学部 小計		97	112	108	142	459	443	443	94	15
大学院	美術専攻	8	14	-	-	22	22	22	1	0
	デザイン専攻	0	1	-	-	1	1	1	0	0
	大学院 小計	8	15	-	-	23	23	23	1	0
合計		105	127	108	142	482	466	466	95	15

履修登録については、デザイン情報学科は高等学校情報免のみ、他学科は中学校と高等学校の美術免を基本として、希望により工芸免を加えて登録している。

○通信教育課程 2016(平成 28)年 5 月 1 日現在

(通信教育課程)		登録者数					免許教科					
							中学		高等学校			
課程認定学科		1 年	2 年	3 年	4 年	小計	美術	美術	工芸	情報		
造形学部	油絵学科	—	23	26	71	120	105	99	26	6		
	工芸工業デザイン学科	—	5	5	23	33	27	29	17	1		
	芸術文化学科	—	1	8	18	27	23	26	9	0		
	デザイン情報学科	—	6	4	14	24	13	15	6	17		
	科目等履修生	卒業生特例						62	51	46	21	7
	科目等履修生	教職生						75	44	29	24	12
造形学部 小計		—	35	43	126	341	263	244	103	43		

通信教育課程の教職課程履修登録は 2 年次より。卒業生特例は本学造形学部（通学課程を含む）の卒業生について、教職生は現職の学校教員で校長等の推薦のある者について、教員免許状の取得を目的として履修する者である。

■免許状授与件数

通学課程の免許状は、大学を通じて免許状授与権者である東京都教育委員会に卒業修了年次に教育職員免許法施行規則別表1の科目について「一括申請」を行うために正確な数値がわかります。これに対して、各都道府県教育委員会に学生が「個別申請」を行うことが一般的な通信教育課程では、実数の把握が困難となっています。

詳細参照 過年度の免許状授与件数は『武蔵野美術大学年報』をご覧ください。

○通学課程

(1) 2012(平成24)年度卒業者

(通学課程) 課程認定学科専攻		授与者数	免許取得者数 (免許状種別ごとに表示)			
			高等学校			中学校
			美術	工芸	情報	美術
造形学部	日本画学科	12	12	5	0	12
	油絵学科	38	38	4	0	37
	彫刻学科	8	8	0	0	8
	視覚伝達デザイン学科	5	5	1	0	5
	工芸工業デザイン学科	11	11	5	0	11
	空間演出デザイン学科	8	8	0	0	8
	芸術文化学科	4	4	0	0	4
	デザイン情報学科	0	0	0	0	0
	科目等履修生	8	8	5	0	8
	造形学部 小計	94	94	20	0	93
大学院	美術専攻	24	24	2	0	24
	デザイン専攻	1	1	1	0	1
	大学院 小計	25	25	3	0	25
	大学 合計	119	119	23	0	118

(2) 2013(平成25)年度卒業者

(通学課程) 課程認定学科専攻		授与者数	免許取得者数 (免許状種別ごとに表示)			
			高等学校			中学校
			美術	工芸	情報	美術
造形学部	日本画学科	11	11	0	0	11
	油絵学科	39	39	5	0	38
	彫刻学科	9	9	4	0	9
	視覚伝達デザイン学科	4	4	2	0	4
	工芸工業デザイン学科	13	13	2	0	13
	空間演出デザイン学科	9	9	4	0	9
	芸術文化学科	6	6	5	0	6
	デザイン情報学科	1	0	0	1	0
	科目等履修生	10	10	3	0	10
	造形学部 小計	102	101	25	1	100
大学院	美術専攻	18	16	2	0	15
	デザイン専攻	1	1	1	0	1
	大学院 小計	19	17	3	0	16
	大学 合計	121	118	28	1	116

(3) 2014(平成26)年度卒業生

(通学課程) 課程認定学科専攻		授与者数	免許取得者数 (免許状種別ごとに表示)			
			高等学校			中学校
			美術	工芸	情報	美術
造形学部	日本画学科	7	7	1	0	7
	油絵学科	37	37	6	0	37
	彫刻学科	14	14	1	0	14
	視覚伝達デザイン学科	3	3	0	0	3
	工芸工業デザイン学科	9	9	5	0	9
	空間演出デザイン学科	10	10	1	0	9
	芸術文化学科	6	6	1	0	6
	デザイン情報学科	0	0	0	0	0
	科目等履修生	14	12	4	0	13
	造形学部 小計	100	98	19	0	98
大学院	美術専攻	14	14	1	0	14
	デザイン専攻	2	2	2	0	2
	大学院 小計	16	16	3	0	16
	大学 合計	116	114	22	0	114

(4) 2015(平成27)年度卒業生

(通学課程) 課程認定学科専攻		授与者数	免許取得者数 (免許状種別ごとに表示)			
			高等学校			中学校
			美術	工芸	情報	美術
造形学部	日本画学科	19	19	5	0	19
	油絵学科	38	38	5	0	38
	彫刻学科	10	10	2	0	10
	視覚伝達デザイン学科	3	3	1	0	3
	工芸工業デザイン学科	20	20	12	0	19
	空間演出デザイン学科	8	8	3	0	7
	芸術文化学科	4	4	0	0	4
	デザイン情報学科	0	0	0	0	0
	科目等履修生	10	9	6	0	9
	造形学部 小計	112	111	34	0	109
大学院	美術専攻	11	11	0	0	11
	デザイン専攻	2	2	1	0	2
	大学院 小計	13	13	1	0	13
	大学 合計	125	124	35	0	122

(5) 2016(平成28)年度卒業生

(通学課程) 課程認定学科専攻		授与者数	免許取得者数 (免許状種別ごとに表示)			
			高等学校			中学校
			美術	工芸	情報	美術
造形学部	日本画学科	8	8	0	0	8
	油絵学科	40	40	5	0	36
	彫刻学科	9	9	0	0	9
	視覚伝達デザイン学科	2	2	0	0	2
	工芸工業デザイン学科	11	11	4	0	11
	空間演出デザイン学科	8	8	0	0	7
	芸術文化学科	9	9	3	0	9
	デザイン情報学科	0	0	0	0	0
	科目等履修生	10	9	5	0	9
	造形学部 小計	97	96	17	0	91
大学院	美術専攻	12	12	0	0	12
	デザイン専攻	1	1	0	0	1
	大学院 小計	13	13	0	0	13
大学 合計		110	109	17	0	104

○通信教育課程「別表1」の一括申請

卒業生特例は本学造形学部（通学課程を含む）の卒業生について、教職生は現職の学校教員で校長等の推薦のある者について、教員免許状の取得を目的として履修する科目等履修生です。通信教育課程の特徴として、卒業段階で免許状授与権者である東京都教育委員会に大学を通じて「別表1」について申請を行う「一括申請」の割合が低くなります。編入学者や科目等履修生など様々な時期に居住地の道府県教育委員会に行ったり、「別表3」「別表4」「別表8」により既修得免許状などを前提に申請する「個別申請」の比重が高くなります。この「個別申請」では、大学は証明書の発行等々を行うが、授与権者からの免許状の授与の仲立ちを行わないため、最終的な免許状授与件数の把握が難しいのが実態です。

(1) 2012(平成24)年度通信教育課程卒業者のうち一括申請者

(通信教育課程) 課程認定学科		授与者数	免許教科			
			中学	高等学校		
			美術	美術	工芸	情報
造形学部	油絵学科	3	2	3	2	
	工芸工業デザイン学科					
	芸術文化学科					
	デザイン情報学科					
	造形学部 小計	3	2	3	2	

(2) 2013(平成25)年度通信教育課程卒業者のうち一括申請者

(通信教育課程) 課程認定学科		授与者数	免許教科			
			中学		高等学校	
			美術	美術	工芸	情報
造形学部	油絵学科	2	2	2		
	工芸工業デザイン学科					
	芸術文化学科	3	3	3		
	デザイン情報学科					
	造形学部 小計	5	5	5		

(3) 2014(平成26)年度通信教育課程卒業者のうち一括申請者

(通信教育課程) 課程認定学科		授与者数	免許教科			
			中学		高等学校	
			美術	美術	工芸	情報
造形学部	油絵学科	4	4	4		
	工芸工業デザイン学科					
	芸術文化学科					
	デザイン情報学科	2		1		1
	造形学部 小計	6	4	5		1

(4) 2015(平成27)年度卒業者のうち一括申請者

(通信教育課程) 課程認定学科		授与者数	免許教科			
			中学		高等学校	
			美術	美術	工芸	情報
造形学部	油絵学科					
	工芸工業デザイン学科					
	芸術文化学科	3	3	3	1	
	デザイン情報学科					
	造形学部 小計	3	3	3	1	

(5) 2016(平成28)年度卒業者のうち一括申請者

(通信教育課程) 課程認定学科		授与者数	免許教科			
			中学		高等学校	
			美術	美術	工芸	情報
造形学部	油絵学科	5	3	5	1	
	工芸工業デザイン学科	1	1	1	1	
	芸術文化学科					
	デザイン情報学科	1		1	1	1
	造形学部 小計	7	4	7	3	1

○通信教育課程の個別申請件数（申請証明書発行数）

通信教育課程では、本学編入学前や本学卒業又は退学後に修得し単位の証明書によって都道府県教育委員会（免許状授与権者）に対して「個人申請」を行って免許状を授与されるケースが多く存在します。これは大学が免許状の授受そのものに関与しないために実際の授与の確認が困難です。大学として把握できる証明書の発行数は次のとおりです。

	発行者数	学生所属学科内訳				科目等履修生		別表の内訳			
		油絵学科	工芸工業デザイン学科	芸術文化学科	デザイン情報学科	卒業生特例	教職生	別表1	別表3	別表4	別表8
2012(平成24)年度	51	11	4	7	5	17	7	33	1	13	4
2013(平成25)年度	65	15	4	4	2	28	12	44	1	14	6
2014(平成26)年度	70	13	3	4	4	32	14	49	2	10	9
2015(平成27)年度	63	11	2	4	4	21	21	33	4	16	10
2016(平成28)年度	51	9	1	4	6	17	14	33	2	13	3

2016(平成28)年分は2017(平成29)年3月29日現在の数値で、今後の変更がありうる。

■免許状更新講習実施数

本学は、教育職員免許法にもとづく免許状更新講習について文部科学省による試行段階から参加して、実施初年度から実施しています。通信講習の教材には、必修領域では公益財団法人私立大学通信教育協会編による『教育事情 第3版』（2016年度より必修領域と選択必修領域を『新しい教育事情』に更新）を使用し、選択必修領域では選択したクラスにより『造形ワークショップ入門』（武蔵野美術大学出版局 2015年）か『新しい教育相談論』（武蔵野美術大学出版局 2016年）、選択領域では『美術教育の動向』（武蔵野美術大学出版局 2009年）を用いています。対面講習では、必修領域と選択必修領域は講義形式、選択領域は美術の各分野の工房での実習と学習指導に関するゼミによる形式で実施しています。

	必修領域				選択領域			
	登録者数			修了認定試験 合格者数	登録者数			修了認定試験 合格者数
	通信講習	対面講習	計		通信講習	対面講習	計	
2012(平成24)年度	92	113	205	196	85	121	206	198
2013(平成25)年度	53	102	155	147	53	102	155	146
2014(平成26)年度	55	94	149	140	53	97	150	143
2015(平成27)年度	53	103	156	153	47	109	156	151
2016(平成28)年度	55	121	176	169	48	128	176	171

	選択必修領域			
	登録者数			修了認定試験 合格者数
	通信講習	対面講習	計	
2016(平成28)年度	55	121	176	171

登録者数には、レポート課題を提出していない者や欠席者・未受験者を含む。

5 ■就職状況■ (施行規則第 22 条の 6 第 5 号)

■東京都教員選考合格者実績

東京都教育委員会の公立学校教員選考についての採用実績を記載します。東京都の美術教員の採用では、小学校図画工作科専科教員と中学校美術科、中学校美術科と高等学校美術科をあわせて実施されています。「名簿登載者」は教諭としての合格者、「期限付」は期限付名簿登載者として1年間の講師の合格者をさし、これらのデータには他の時期の選考試験や講師等の個別の採用を含みません。

採用年度 (実施は 前年)	小・中学校		中・高等学校		特別支援学校		合計		
	名簿登載者	期限付	名簿登載者	期限付	名簿登載者	期限付	名簿登載者	期限付	合計
2013(平成 25)年度	4 (0)	2 (1)	5 (0)	3 (0)	3 (0)	0 (0)	12 (0)	5 (1)	17 (1)
2014(平成 26)年度	8 (2)	3 (0)	5 (0)	4 (1)	3 (0)	2 (1)	16 (2)	9 (2)	25 (4)
2015(平成 27)年度	13 (2)	6 (1)	10 (0)	7 (3)	5 (1)	2 (0)	28 (3)	15 (4)	43 (7)
2016(平成 28)年度	7 (1)	11 (2)	5 (2)	4 (2)	4 (1)	0 (0)	16 (4)	15 (4)	31 (8)
2017(平成 29)年度	11 (0)	4 (2)	2 (1)	5 (0)	0 (0)	1 (1)	13 (1)	10 (3)	23 (4)

■学校教員の採用実績

武蔵野美術大学就職課では、各都道府県教育委員会・政令指定都市教育委員会に照会して卒業生の公立学校教員採用数を調査しています。また当年3月卒業者についての就職調査では私立学校や非常勤講師、大学助手等の就職状況も調査されています。これらのデータは、就職課を通じて説明会等で学生の参考に提示されるとともに、また「教師論」や「教育実践の研究」などの授業においても学生に伝えられています。

採用年度	各教育委員会による回答の集計 *1 (教諭等の専任者のみ)				就職課による当年3月 卒業者の集計 小中高特支等 学校教員
	中学校 美術	高等学校 美術	高等学校 情報	合計	
2013(平成 25)年度	26	5	1	32	12
2014(平成 26)年度	22	7	0	29	7
2015(平成 27)年度	37	2	0	39	11
2016(平成 28)年度	28	2	0	30	7 *2
2017(平成 29)年度	25	2	0	27	3

*1 2017(平成 29)年度について、就職課による当年度卒業者集計は、2017(平成 29)年 3 月 31 日現在の数値で今後の変更がありうる。

*2 就職課による当年 3 月卒業者の集計は卒業後に行われるので前年分の訂正がある。2017 年度は教育委員会報告分など、2017(平成 29)年 3 月 6 日現在の把握となる。

6 ■ 質向上の取組 ■ (施行規則第 22 条の 6 第 6 号)

武蔵野美術大学は、教育職員免許法施行規則等に定める授業科目の充実に努めるほか、大学独自の質向上の取組として次の取組を実施しています。

■ 大学独自教科書の発行

通信教育課程における教職課程の教科書として多くの教科書を刊行して、また同書を通学課程の教科書としても活用することにより、授業及び授業前後の学生による学習に効果を上げています。常に新しい教育動向を反映するため、2016(平成 28)年度は 2002 年刊行『教育相談論』を『新しい教育事情』に更新しました。

編著者	書名	刊行年月	出版社	通信教育課程該当科目
高橋陽一編	新しい教師論	2014 年 4 月	武蔵野美術 大学出版局	教師論
高橋陽一著	教育通義	2013 年 4 月	武蔵野美術 大学出版局	教育原理 I・II
三澤一実監修	美術教育の題材開発	2014 年 4 月	武蔵野美術 大学出版局	教育方法、美術教育法 I・III・IV、 工芸教育法 II
大坪圭輔著	美術教育資料研究	2014 年 4 月	武蔵野美術 大学出版局	美術教育法 I・II・III・IV、 工芸教育法 I
大坪圭輔著	工芸の教育	2017 年 4 月	武蔵野美術 大学出版局	工芸教育法 I
高橋陽一著	新版 道徳教育講義	2012 年 4 月	武蔵野美術 大学出版局	道徳教育の研究
高橋陽一・伊東毅著	道徳科教育講義	2017 年 4 月	武蔵野美術 大学出版局	道徳教育の研究
伊東毅著	未来の教師におくる 特別活動論	2011 年 4 月	武蔵野美術 大学出版局	特別活動の研究
高橋陽一・伊東毅編	新しい生活指導と進 路指導	2013 年 4 月	武蔵野美術 大学出版局	生活指導の研究
高橋陽一・伊東毅編	新しい教育相談論	2016 年 4 月	武蔵野美術 大学出版局	教育相談論
大坪圭輔・三澤一実 編	美術教育の動向	2009 年 4 月	武蔵野美術 大学出版局	美術の歴史と鑑賞、教職実 践演習
高橋陽一編	造形ワークショップ 入門	2015 年 4 月	武蔵野美術 大学出版局	ワークショップ研究 I・II

詳細参照 通信教育課程教材ページ cc.musabi.ac.jp/about/text 武蔵野美術大学出版局ウェブページ
<http://www.musabi.co.jp/listb/education>

■ 美術と福祉プログラム

1998(平成 10)年度より開始された「美術と福祉プログラム」は、教職課程履修者に適用される介護等体験法にもとづく本学独自の取組です。2006(平成 18)年度には文部科学省より「特色ある大学教育支援プログラム」(特色 GP) に選定されました。2015(平成 27)年度は、教職課程 2 年次の必修科目(情報免を除く)として「美術と福祉」(通年 2 単位演習科目、教科又は教職に関する科目に該当、7 クラス開講)をゼミ形式で開設しています。運営は小平市内の 6 つの社会福祉施設と提携して外部

評価委員会を置いて実施しています。教職課程研究室の高橋陽一教授が全体を担当して、各クラスは、杉山貴洋講師、葉山登講師、川本雅子講師、田中千賀子講師、有福一昭講師が担当しています。

【詳細参照】 美術と福祉プログラムウェブページ www.musabi.ac.jp/gp/ 『美術と福祉プログラム報告書』2006年度～2008年度、高橋陽一『美術と福祉とワークショップ』武蔵野美術大学出版局 2009年。

■造形ファシリテーション能力獲得プログラム

造形ファシリテーション能力獲得プログラムは、全学科の学生を対象にして、教職課程研究室を中心に造形学部全体が連携して実施しており、造形ワークショップを支える能力としての造形ファシリテーション能力を獲得するための取組です。「造形ファシリテーション能力獲得プログラム — 造形ワークショップの記録と表現による学士力の形成」として2009(平成21)年には文部科学省より「大学教育・学生支援推進事業」大学教育推進プログラム(テーマA)に選定されました。現在は高橋陽一担当「ワークショップ実践研究Ⅰ」、三澤一実・齋藤啓子担当「ワークショップ実践研究Ⅱ」(各半期2単位)として開講しています。

【詳細参照】 造形ファシリテーション能力獲得プログラムウェブページ www.musabi.ac.jp/gp/ 『造形ファシリテーション能力獲得プログラム報告書』2009年度～2011年度、高橋陽一『造形ワークショップを支える』武蔵野美術大学出版局 2012年。

■旅するムサビ・ムサビる

旅するムサビ・ムサビるは、教職課程研究室の三澤一実の指導で、教職課程履修学生を中心に学生主体の課外活動として、小中学校や地域団体と連携して行われる美術教育の活動です。図画工作科・美術科の教員と連携して、造形ワークショップ、児童生徒参加の展示活動、黒板ジャック、公開制作などの様々な取組が行われています。

【詳細参照】 大学公式ページ www.musabi.ac.jp/collaboration/spread/tabimusa_project 学生参加による公開ページ tabimusa.exblog.jp

■学校ボランティア・インターンシップ

武蔵野美術大学教職課程研究室は、近隣小中学校を中心に積極的に学生が学校現場に関わるボランティア活動の機会の提供に努めています。一般大学と異なって実技授業時数の多い美術大学の特性から通常の授業期間での学校ボランティア・インターンシップには困難があるため、授業がない期間に計画的に送り出す活動として位置づけています。2016(平成28)年春で第5期を迎えた「上砂川むさびプロジェクト」(立川市立上砂川小学校との連携)や小平市立中学校での学校ボランティア活動を展開しています。

■教職課程の授業評価

教職課程のすべての授業科目において、授業評価を実施して授業の改善に活用しています。通学課程では教職課程独自の調査用紙を用いて、授業科目ごとに全数調査で実施しています。通信教育課程では課程全体の授業評価調査(全学生・全科目対象)により実施しています。これらの調査結果は、各担当教員に伝えられるとともに、教職全体の授業科目改善のための資料として活用されています。

■児童生徒・保護者向けの情報公開

教職課程のあり方を広く社会に伝えるために、年2回、6月と8月に実施される全学のオープンキャンパスの機会に1教室を使ったブース出展や公開授業を行っています。ブースでは教職課程の特色ある取組が展示され、教職課程研究室教員による模擬授業、教職課程履修学生が相談役となった大学

紹介・入学相談活動を行っています。また小中高等学校教員によって引率された児童・生徒のスペースとしても活用されて定着しています。2016(平成 28)年度は 6 月 11 日(土)、12 日(日)と 8 月 20 日(土)、21 日(日)に実施しました。

■教育研究施設の充実

美術と福祉プログラムの実施や学生の自主的な学習施設として 1999(平成 11)年 4 月に教職資料閲覧室が開設されました。教職資料閲覧室は、教職関係の図書や過去の介護等体験の記録類を備えた「閲覧室」、演習や準備を行う「演習室」、造形ワークショップの教材と記録を保管する「資料室」の 3 室から構成されています。2016(平成 28)年 4 月からは、武蔵野美術大学 14 号館竣工に伴う施設充実に連動して、「演習室」を拡充して「美術演習室」2 室(連結使用可能)と、教員の教育研究のための「教職課程研究室」が増設されました。

■科学研究費補助金による研究活動

教職課程研究室の教員が研究代表者として受け入れている科学研究費補助金は次のとおりです。

- ① 研究代表者高橋陽一「昭和戦前戦中期における日本精神論の興隆と退潮」基盤研究(C)研究課題番号 15K04252 2015 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日(予定)
- ② 研究代表者田中千賀子「大正期における新教育の実践と学校園」若手研究(B)研究課題番号 15K17358、2015 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日(予定、2015 年度東京家政大学受入分より移行)

■研究室雑誌『造形と教育』の刊行

大学院での教員養成の取組として、大学院ゼミ「教育学研究」において大学院学生による調査研究の成果発表の場として『造形と教育』ISSN2187-5376 を発行しています。専修免許状課程の修士課程学生のみならず、博士後期課程学生や教職員による造形教育の報告のメディアとして定着しています。2017(平成 29)年 1 月で第 10 号を刊行しました。

武蔵野美術大学『武蔵野美術大学教職課程の概要 第 3 年報 2017(平成 29)年 4 月 1 日現在』

第 1 年報 2015(平成 27)年 3 月 31 日作成 4 月 1 日公表 同 6 月 10 日 誤植訂正版

第 2 年報 2016(平成 28)年 3 月 31 日作成 4 月 1 日公表

第 3 年報 2017(平成 29)年 3 月 31 日作成 4 月 1 日公表

〒187-8505 東京都小平市小川町 1-736 (鷹の台校)

(通学課程) 学生支援グループ 教務チーム 教職担当

(研究室) 教職課程研究室・教職資料閲覧室

〒180-8566 東京都武蔵野市吉祥寺東町 3-3-7 (吉祥寺校)

(通信教育課程) 通信教育グループ 通信教育チーム 教職担当